

平成19年度学術ポータル担当者研修レポート

上越教育大学学務部学術情報課

4-1 岡崎敬子

4-2 平田三麗

1. 発表資料の状況設定

【対象】 機関リポジトリ専門部会委員

【状況設定】 機関リポジトリ専門部会の設置が承認され、今後構築に向けての準備を進めて行く予定である。まずは、その機関リポジトリ専門部会委員の教員に機関リポジトリについて知ってもらい、コンテンツの提供を依頼する。(機関リポジトリについての知識はほとんどないと予想される)

2. 発表内容抄録

Googleでの論文検索から本文閲覧に至るまでの流れを用い、他大学の機関リポジトリの例を紹介した。リポジトリの本来の意味から導入し、イメージ図を用いて機関リポジトリとはどういうものか、また機関リポジトリ登録における教員にとってのメリットを説明した。次に、提供していただくコンテンツの種類、送付形態、送付方法について説明した。最後に、公開には著作権者の許諾があること、共著者のいる場合は共著者全員から許諾をいただいていたほしいことを説明し、論文提供の協力をお願いした。

<講師からの助言等>

- ・著作権処理の図で、雑誌の発行者（学協会と出版社）で著作権処理の流れを分けるようになっているのは、誤解を与えるおそれがある。
- ・「リポジトリ構築のための費用を電子ジャーナル購入の費用にまわした方がよいのでは」という質問には、「自力構築でのリポジトリ構築には、ほとんど費用がかからない」と言い切ってしまったほうがよい。
- ・（講師からではないが）Googleで具体的に検索した画面を入れているのがわかりやすいとの感想をいただいた。
- ・〇得 の表現がよかった。
- ・「将来的には全国の大学教授の論文がリポジトリにより無料で読めるようになるのか？」の質問に対して、「まず先生ご本人が流れをつくっていただきたい」の回答はよかった。

<研修発表との改訂部分>

- ・「(附属) 図書館」という文言を「学術情報課」または「こちら」に置き換えた
図書館の業務ではなく、大学全体で取り組む事業であるため、より正確な表現に修正した。
- ・「業績」という文言を「成果物」に置き換えた。
リポジトリ運用方針の中で、登録対象として「研究・教育成果」を用いているので、それに合わせた。
- ・ハンドルシステムに関する内容を削除した。
本学では、ハンドルシステムをただちに導入するかどうか不確定であるため。
- ・導入部分の説明を詳しくした。
本学教員の論文が掲載された雑誌を本学で読めない、という状況設定がわかりやすくなるようにした。
- ・教員にとってのメリットを挙げるところで、“評価”に関する表現を削除した。
教員に対して評価に関する表現は用いない方がよいと判断し、口頭説明にとどめてあったが、完全に削除した。
- ・「著作権者の許諾を得る流れ」の図を修正した。
雑誌の発行者（学協会と出版社）による分岐を削除し、教員の負担が少なく見えるように修正した。

3. リハプレゼンの概要

日 時：平成19年10月18日（木）13：30－14：40

場 所：機関リポジトリ専門部会（上越教育大学大会議室）

発表者：岡崎（パワーポイント：平田）

発表対象：機関リポジトリ専門部会委員

参加人数：9人

機関リポジトリ専門部会の中で、運用方針案検討の前に10分ほど時間をいただき、プレゼンと質疑応答を行った。

（会議資料としてパワーポイントの配布物を作成し配布した）

4. リハプレゼンへの反響

学内で広報を行うのは、これが初めてであった。「機関リポジトリ」についての認知度は低いと予想していたが、先生方の関心は高く、具体的な質問も聞かれ、論文の提供が期待される。

<リハプレゼンでの質問>

- ・共著者が亡くなっている場合、著作権が誰かに移っているかもしれないが、そういった場合も自分で調べなくてはならないのか？
- ・出版社がリポジトリに登録を認めているのは、どの段階の原稿か？（プレゼンでは、著者最終原稿にはふれていない）
- ・“論文をください”とスライドにあるので、ただ論文を送付すればいいように受け取られるが、実際は、共著者への確認などの作業が必要ということか？
- ・テキストベース以外のものは、収集対象にならないのか？
- ・将来的に件数が増えたときに、本文ではなく、抄録だけを登録したり、抄録だけ登録したものを収集することはないのか？
- ・修士論文を登録する際、指導教員の許可はいらぬのか？
- ・在職期間に作成したものでないと登録できないのか？

5. その他（備考、今後の予定と希望など）

今回のプレゼンは、まず「機関リポジトリ」の概要を知っていただくことが目的であったため、著者最終稿や教員側での具体的な作業の流れなどはもりこまなかったが、実際の質疑応答では、いろいろな質問がなされた。今後は、登録手順等をもりこむなど、内容の見直しが必要と感じた。また、教員への明確な回答ができるよう、収集、登録の詳細について決めていかなければならないし、担当者側の情報の確認や共有が必要である。

システム、コンテンツともまだ何も進んでいない状況であるが、まずは1件目の論文登録をめざし、できることから一歩を進めたいと思う。